

奄美群島徳之島から得られたヒラスズキ

中村潤平¹・是枝伶旺²・北本憲吾³・本村浩之⁴¹ 〒 892-0814 鹿児島市本港新町 3-1 いおワールドかごしま水族館² 〒 890-8580 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院農林水産学研究所³ 〒 891-7602 鹿児島県大島郡天城町松原 367-3 有限会社アートボブ 徳之島オフィス⁴ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

はじめに

スズキ科魚類 Lateolabracidae のヒラスズキ *Lateolabrax latus* Katayama, 1957 は、日本と韓国に分布し、国内においては鹿児島県大隅諸島以北の南日本沿岸域を主な分布域とする遊漁の対象としても人気が高い水産上重要種である(村瀬ほか, 2012; 中山, 2018; 中村ほか, 2021).

2022年6月15日に鹿児島県の奄美群島徳之島において全長約60cmのヒラスズキ1個体が釣獲された。琉球列島における本種の分布記録は少なく、中・大型個体が散発的にのみ記録されており、同列島内の詳細な分布状況については不明な点が多い(下瀬ほか, 2011; 三浦, 2012; 下瀬, 2021; 中村ほか, 2021)。したがって、本稿では徳之島から得られたヒラスズキを本種の分布に関する知見の蓄積のために報告する。

材料と方法

本報告に用いた個体は、徳之島で釣獲された1個体(KAUM-I.169919, 全長約60cm, 頭長123.1mm, 鹿児島県大島郡天城町平土野 奄美群島徳之島西岸, 2022年6月15日, 釣り, 北本憲吾採集; Fig. 1)で、頭部と尾部のみ鹿児島大学総合研究博物館(KAUM)に学術標本として保管されている。また、生時と生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。頭長の計測は頭部の固定標本でおこない、背鰭と臀鰭の軟条

数の計数は写真からおこなった。なお、本稿における琉球列島は、Motomura and Matsunuma (2022: fig. 5.2)にしたがいトカラ列島から八重山諸島にかけての範囲とした。

結果と考察

徳之島産の個体(Fig. 1)は、背鰭軟条数が15、臀鰭軟条数が9、下顎背面に発達した鱗列を有する、尾柄が太く短い、および尾鰭後縁の湾入が浅いことなどの特徴によりKatayama (1957)、村瀬ほか (2012)、波戸岡 (2013)、および中村ほか (2021)が報告したヒラスズキ *Lateolabrax latus* の標徴と一致したため本種に同定された。

ヒラスズキは日本と韓国(朝鮮半島南部と済州島)にのみ分布する東アジアの固有種で、国内においては石川県能登半島と茨城県から九州南岸にかけての本州、四国、および九州の沿岸域、鹿児島県大隅諸島、および琉球列島から記録されている(村瀬ほか, 2012; 波戸岡, 2013; 中村ほか, 2021)。本種の琉球列島における記録は下瀬ほか (2011)と中村ほか (2021)により詳細に記述されており、これまで奄美群島(奄美大島, 喜界島)、沖縄諸島(沖縄島, 伊是名島, および久米島)、および八重山諸島(石垣島)からの記録が知られていたが、本研究により新たに奄美群島徳之島における分布が確認された。

本研究で報告した個体は、徳之島の西岸に位

Nakamura, J., R. Koreeda, K. Kitamoto and H. Motomura. 2022. Record of the Blackfin Seabass *Lateolabrax latus* (Perciformes: Lateolabracidae) from Tokuno-shima island, Amami Islands, Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 49: 53-55.

✉ JN: Kagoshima City Aquarium, 3-1 Honko-shimmachi, Kagoshima, 892-0814, Japan (e-mail: j-nakamura@ioworld.jp).
Received: 10 July 2022; published online: 12 July 2022; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_049/049-012.pdf

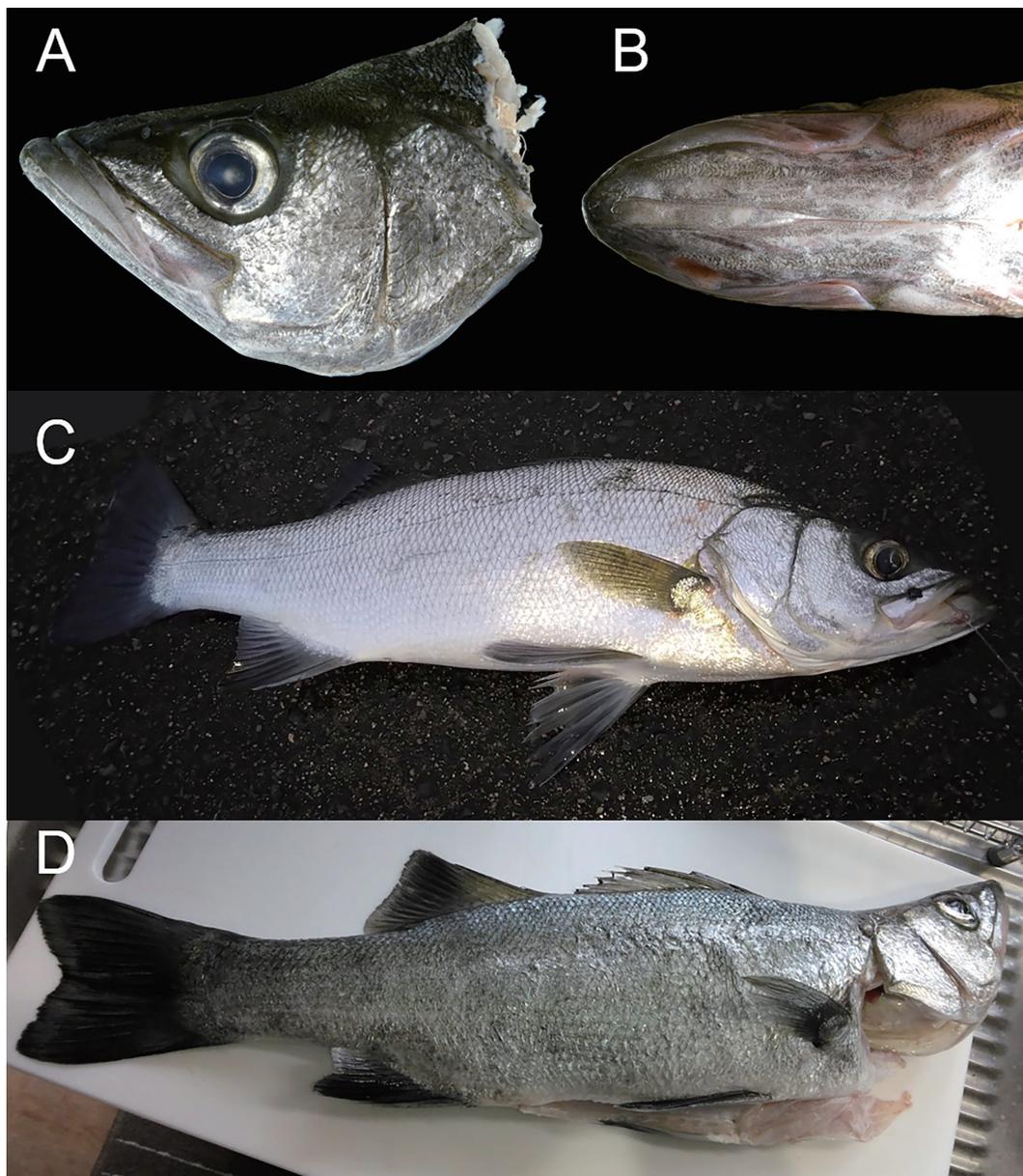


Fig. 1. *Lateolabrax latus* from Tokuno-shima island, Amami Islands, Kagoshima Prefecture, southern Japan (KAUM-I. 169919, ca. 60 cm total length, 123.1 mm head length). A: fresh specimen of lateral view of head; B: fresh specimen of ventral view of head; C: immediately after angling; D: fresh condition (after removing internal organs).

置する港で釣りにより採集された。また、第3著者による徳之島におけるヒラスズキの出現情報に関する聞き込み調査では、1970年代後半頃に2個体、2000年代初頭頃に1個体、同島内でヒラスズキと考えられる個体が採集された情報が得られた。このように、ヒラスズキは琉球列島におい

て頻度は極めて低いものの稀に出現が確認されることから、本種は琉球列島で再生産をおこなってはいないものの、日本本土沿岸域からの黒潮とは逆向きの海流によって一定数が琉球列島に供給されているものと考えられる（中村ほか、2021；本研究）。

謝 辞

ヒラスズキの情報をくださった徳之島の島民のみなさま、および標本の登録・管理にご協力いただいた鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室のみなさまと同博物館のボランティアのみなさまに深く感謝する。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費 (20H03311・21H03651)、JSPS 研究拠点形成事業－B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009)、および文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」の援助を受けた。

引用文献

- 波戸岡清峰. 2013. スズキ科, pp. 748, 1957–1958. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Katayama, M. 1957. Four new species of serranid fishes from Japan. *Japanese Journal of Ichthyology*, 6: 153–159.
- 三浦信男. 2012. 美ら海市場図鑑 知念市場の魚たち. ウェーブ企画, 与那原. 140 pp.
- Motomura, H. and M. Matsunuma. 2022. Fish diversity along the Kuroshio Current, pp. 63–78. In Kai, Y., H. Motomura and K. Matsuura (eds.) *Fish diversity of Japan: evolution, zoogeography, and conservation*. Springer Nature Singapore Pte Ltd., Singapore.
- 村瀬敦宣・宮崎佑介・瀬能 宏. 2012. 屋久島産標本に基づくヒラスズキ *Lateolabrax latus* の再記載と河川における生息状況. *魚類学雑誌*, 59: 11–20.
- 中村潤平・大富 潤・本村浩之. 2021. 奄美群島喜界島から得られた標本に基づく琉球列島初記録のヒラスズキ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 14: 13–16.
- 中山耕至. 2018. スズキ科 *Lateolabracidae*, pp. 228–229. 中坊徹次 (編). *小学館の図鑑 Z 日本魚類館*. 小学館, 東京.
- 下瀬 環. 2021. 沖縄さかな図鑑. 沖縄タイムス社, 那覇. 207 pp.
- 下瀬 環・名波 敦・瀬能 宏. 2011. 石垣島で水中撮影されたスズキ属魚類. *魚類学雑誌*, 58: 211–213.